

令和5年12月教育委員会定例会会議録

1 期 日 令和5年12月15日（金） 開会 午後3時00分
閉会 午後3時55分

2 場 所 旭市役所3階政策決定室

3 出席委員 向後 依明（教育長）
鈴木 典男（教育長職務代理者）
鏑木 俊一
富山 理
平野 勝久

4 出席職員

教育総務課長	向後 稔
学校教育指導室長	臼倉 浩
生涯学習課長	伊藤 弘行
体育振興課長	金杉 高春
教育総務課副課長	江ヶ寄 基道
教育総務課副課長 (学校再編室長兼務)	八馬 裕樹
生涯学習課副課長 (旭市図書館長兼務)	加瀬 美智子
体育振興課副課長	遠藤 敏晴
学校教育指導室指導主事	富樫 勇介
教育総務課総務班副主幹	加瀬 悦子

5 教育長開会宣言

6 教育長挨拶

- 12月も中旬に入り、今年も残りわずかとなりました。毎年この時期になりますと、今年の世相を表す漢字一字が話題となります。今年も公益財団法人日本漢字能力検定協会が制定した「漢字の日」12月12日に、清水寺の森清範貫主の揮毫により漢字一字が発表されたところがございます。委員の皆さんもすでにご存じだと思いますが、今年の漢字一字は「税」となりました。所得税減税やインボイス制度導入などの理由が多かったようで、生活に直結する税の動向が注目された一年だったことが決め手になったようです。ちなみに2位は「暑」です。記録的な猛暑を理由にした方が多かったです。3位は「戦」です。ロシアとウクライナに加え、パレスチナ自治区ガザでの戦闘を理由にした方が多かったです。ここ数年を振り返ってみますと、

去年が戦争の「戦」、その前の年がオリンピックもありましたが、「金」です。その前が「密」、その前の年は自然災害がかなり多かった年で「災」という字で、その前は「北」。今年、森清範貫主が発表後のコメントで、「世界を見ても不穏な空気ばかりで、来年こそは「和」という文字を書きたい。」と報道陣に話していたそうです。

- ・さて、私たちの役割は、学校教育の充実と共に生涯学習・文化・スポーツ等の振興を通じて、市民の皆さんに希望に満ちた明るく豊かで充実した人生を送っていただくことです。このような、近年の不穏な空気を吹き飛ばすためにも、今年のとめをしっかりと行い、来年の教育行政の更なる充実・発展につなげて参りたいと考えていますので、引き続き、委員の皆様のご指導・ご鞭撻^{べんたつ}を賜りますよう、よろしく願いいたします。

7 会議録署名委員の指名 鏑木 俊一委員 平野 勝久委員

8 教育委員会報告

- ・資料により委員会報告及び行事予定を説明する。

9 その他

【教育総務課長】

- ・総合教育会議の会議録の確認依頼をする。
- ・教育功労受賞者の報告をする。
- ・学校教育指導室だより「かけはし」を配付する。
- ・学校給食だよりを配付する。

【学校教育指導室長】

- ・教育活動の現況報告をする。
 - (1) インフルエンザによる学級閉鎖等の状況
 - (2) ちばっ子学びの未来デザインシート事業について

【生涯学習課長】

- ・令和6年旭市二十歳のつどい式典の開催について説明する。

【体育振興課長】

- ・事業の報告をする。
 - (1) 第3回日本一身近な海づくり推進事業「ぽるぽろ」の実施結果について
 - (2) 第19回旭市民駅伝大会の最終申し込み状況について
 - (3) 第35回旭市飯岡しおさいマラソン大会のエントリー状況について

《質疑》

【委員】

- ・合同文化祭のことについて質問いたします。昨年はオンラインで実施したということですが、作る負担はなかったのでしょうか。学校により違うとは思いますが、生徒だけで作ったのか、それとも教員の指導により生徒が作ったのか教えてください。

【学校教育指導室長】

- ・合同文化祭の動画については、生徒が中心になって職員と一緒に作ったような形になります。当日は実行委員が司会を務め、順番に各学校を紹介しながら文化を深め合ったということです。
- ・合同文化祭は平成19年に第1回の開催、その後インフルエンザやコロナウイルス感染症の影響で中止もありましたが、これまで14回開催することができました。その一方で、その間の学習指導要領の改訂によるグローバル化、新しい教育の対応、更に全国学力学習状況調査が導入されたり、タブレット端末によるICT教育の推進があったりと、学校ではいろいろな新しいものが入ってきて対応を求められているところでございます。入試においても、令和3年度に前後期2回あった入試制度が1回に変更されております。中学校においても、それに対応すべく、入試に向けての準備を進めております。文化祭前後の中学校の様子を見ますと、10月下旬に文化祭を行ない、終了後、11月1日に合同文化祭、10月下旬から11月上旬にかけて3年生の三者面談、その後、期末テストを行っており、10月下旬から11月中旬にかけては非常に行事が集中しているような様子が見られます。また、今年度9月中旬から新型コロナウイルス感染症、インフルエンザによる学級閉鎖が相次ぎ、運動会・体育祭等の延期を余儀なくされる学校もございました。学級・学年閉鎖等で中学校の文化祭が延期された場合、3年生の受験などを考慮すると、日程の調整が更に難しくなると予想されております。このような様々な事情を考慮し、教育総務課としましても学校に関する行事の見直しに取り組まざるを得ないという状況になって参りました。検討を重ねた結果、合同文化祭については廃止とする方向で考えております。

【委員】

- ・オンライン開催も中止ですか。

【学校教育指導室長】

- ・はい。ご理解のほど、よろしく願いいたします。

【委員】

- ・第1回教育長・教育委員研修会の動画を見ました。その中で、働き方改革のために横浜市では1コマ40分で午前中5コマの授業を行い、教員が帰る時

間を早くしていると紹介されていました。小学校だと5分、中学校だと10分の残り時間をどのように取るのか。そのやり方がいいのであれば、そんな考えもあるのかと思います。

【学校教育指導室長】

- ・授業のまとめ取りについて小学校の例でお話しさせていただきますと、他県で45分を40分にして授業をやっている学校があります。ただ、指導要領などを見ますと、例えば午前中5時間を40分授業でやると25分足りなくなりますので、その25分を午後の1コマに当てるまとめ取りをし、そこを学習の補充の時間として使うことで45分を5コマ実施したという形にしている学校があります。また、休み時間を短くして、下校時刻を早くしている例もあり、ホームページ等で確認しますと、休み時間が短くても学校から早く帰れることから子供たちには受け入れられているようです。

【委員】

- ・標準授業時数を大幅に上回っている学校は、見直すよう文科省が提言しているということでしたが、以前は下回ると規則に反すると、非常に大変なことだと国や県からも出されていました。そのため、極端に下回っている高校などでは夏休みに生徒を集めて授業をしたという例もありました。だから、そういうことにならないように、学校は標準授業時数を上回るように予定を立てていると思います。標準授業時数ぎりぎりきょうぎで計画し、3月に急遽、大雪や感染症の流行で閉鎖になり授業ができなくなってしまう、結果的に下回った場合どうなるのでしょうか。

【学校教育指導室長】

- ・授業時数ですが、コロナ禍で一斉休校になった時はなかなか授業時数を確保することが難しかったのですが、国からの通知で「授業時数を下回ったことのみをもって学校教育法施行規則に反するものとはされないこと。」と示されました。しかし、現在はコロナ感染症も5類に移行しており、特に授業時数を標準時数より短くして良いという話は入ってきていません。

【委員】

- ・「ちばっ子学びの未来デザインシート」について質問します。配付資料に問題の例が一つありますが、これは選択式ですので正しいか間違っているか、すぐわかると思いますが、記述式だといろんな考えの答えがあります。それについて、正答というのがあるのかという辺り、わかれば教えてください。
- ・学校ごとの平均点は出さないということですが、その辺のことを詳しく教えてください。

【学校教育指導室指導主事】

- ・ちばっ子学びの未来デザインシートの記述式の問題の正答はあります。例えば、昨年度3年生で出されていた問題では、ストーリーの中で最後のまとめの部分が設定されており、「活動の準備ポイント」を10字から40字で書きなさいというようなものがありました。それには、条件1「試してみる・やってみるといったポイントが書かれているかどうか」、条件2「直す・釣れるようにする・軽くする等の改善するポイントが書かれているか」、条件3「10字以上40字以内で書かれているか」という採点基準が設けられておりました。そして、条件1から3の全てを満たしていないものに対しては、このようなアドバイスを、条件1は満たしたが2、3を満たしていないものに対してはこのようなアドバイスをするというものが用意されており、フィードバックされるという形になっていました。
- ・平均点を出さない理由は、PDCAサイクルを推進するためということで、特にその部分については詳しく書かれておらず、目的に照らし合わせて正答率等を出さないということが、マニュアル等に記載されていたと記憶しています。

【委員】

- ・ちばっ子「学力向上総合プラン」のことですが、子供に対してアクションプランで戻ってくる個人の評価は分かりますが、教員に戻ってくる評価というのは、教科を担当している個の教員に対して戻ってくるということなのではないでしょうか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・教員へのフィードバックは、学級別・学年別になっており、特に小学校の担任の先生などは、フィードバックが授業改善に生かしやすいのではないかと思います。学級ごとに出されるので、例えば、「見いだす」のところが少し弱い傾向にあるとか、「まとめあげる」の部分に課題があるというように課題が提示されることにより、授業の作り方で、「まとめあげる」ことの授業時間をもっと充実させていこう等の改善につながります。ただ、今年度初めて全校で実施する事業なので実績がありません。今後、現場がどのように活用していくのか、注視していきたいと思っています。

【委員】

- ・中学校のテストとして考えた場合、高校受験の内申書や成績評価に影響するということでしょうか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・成績評価には関係しないということを事前に生徒に説明するように、県の方から文例が出されており、「この学びのデザインシートは、これこれこうい

う目的でやるものです。今日1時間、精一杯頑張りましょう。なお、これは
通知表などの成績評価には入れないことになっています。」という内容の説明
をするようになっています。

【委員】

- ・フィードバックされた内容に性格的なことや個人的なことについてのアドバイ
スが含まれると、それが子供にとって受け入れられない否定的なことだっ
たり、教員にとって否定的な内容だったりすることも考えられます。公にさ
れ傷ついてしまうような内容のアドバイスは含まれていないのでしょうか。
- ・教員へのフィードバックは、学級担任だけにされるのでしょうか、それとも
学年・学校全てを通した形でされるのでしょうか。

【学校指導室指導主事】

- ・別添資料3の書式が、学年別集計結果です。こちらはサンプルですが、このよ
うにコメント1～4にアドバイスが記載されたり、レーダーチャートで示され
たりして各学校に直接送付されます。

【委員】

- ・先ほど未来デザインシートという説明がありましたが、ただ実施するだけで、
各学校でそれを採点する等の業務は一切ないのでしょうか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・はい、ありません。

【委員】

- ・やるとすればアンケートだけですか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・教師が後でアンケートに答えるような形にはなっています。

【委員】

- ・事後、児童生徒へのアンケートを実施するとなっていますね。

【学校教育指導室指導主事】

- ・この一連55分の中で、最後の10分間の中でアンケートを実施することにな
っています。

【委員】

- ・そうすると、これを実施するため、前後の指導にどのくらいの時間がかかる

のですか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・今年度初めて全校でやっているのですが、どれ位かかったかという具体的なものは聞いていないのですが、まず県からマニュアルが1冊送られてきて、それをしっかりと読み込む時間が必要です。また、小学校で実施した際に視察に行った様子ですが、途中でタブレットの電源が切れてしまい、その予備機を持ってくる対応に補助の先生が入られておりました。実際やる中で一人の教師が対応をしているものの、実質は二人体制でないとうまく回りにくいと感じました。

【委員】

- ・これに前後の指導を含めてかなりの時間がかかるようであれば、それも少し検討しなければならないところだと思います。
それから、採点は誰（何）が、やるのですか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・教育委員会や学校ではやりません。県のコンピュータベースのテストなので、委託された業者が採点結果をまとめて送ってくるような形になっているようです。

【委員】

- ・この問題は、どのような立場の人が作成するのですか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・実際、誰が作成者というのは明かされていません。

【委員】

- ・実施するにあたって、いろんな人に時間がかかってくるという点、考えてしまいます。この実施した評価をどうするのかということでもいろいろ意見がありました。目的は生徒児童の学ぶ意欲の向上となっています。そこで、この結果、学ぶ意欲の向上にどのように結びついているのかという検証は行わないのですか。

【学校教育指導室指導主事】

- ・別添資料1のアクションプランに、「子供たちの学ぶ意欲の向上 学ぶことが楽しいおもしろいを100%」とあります。千葉県はこれを目指しています。

【委員】

- ・目指すのはわかりますが、どのように結びつけていくかということが大事だと思います。結局、教員がこれに携わってくるのでしょうが、ただ単に実施したからといって、すぐ学ぶ意欲の向上につながっていくということにはならないと思いますので、実施するにあたり、その点を考えた方が良いと思います。

【委員】

- ・二十歳のつどいについて、実行委員長・実行委員会とありますが、実行委員の構成や人数を教えてください。今まで何度か集まっている状況はどんな状況ですか。

【生涯学習課長】

- ・実行委員会の委員は中学3年生で開催する合同文化祭時に各学校から出していただいた実行委員にやっていただきます。合同文化祭で皆に紹介したメンバーです。中には大学、就職等の都合でできない方もいますが、当時のメンバーでできる方で構成しています。今回は19人の構成で、その中で委員長・副委員長を選出し、司会・開式の辞・閉式の辞の担当者等の役割を決めるなどして進めているところです。二十歳の主張の発表者や祝辞をいただく恩師も、実行委員が直接お願いしています。
- ・二十歳のつどいの招待者についてですが、コロナ禍前は市議会議員や現校長・教育委員の皆さんなど100名以上の方を招待していましたが、コロナ禍のため招待者を限定していました。今回、コロナ感染症が5類に移行したことから、協議した結果、これまでの招待者を見直し恩師だけを招待することに決定しました。今回は、恩師21名の方に参加していただきます。

【委員】

- ・二十歳のつどいですが、これは我々、参加なしということでもいいですか。

【生涯学習課長】

- ・はい。

【委員】

- ・市民駅伝大会の駐車場や隣接の道路工事の影響はどうですか。

【体育振興課長】

- ・市民駅伝大会の駐車場は、旧干潟公民館を始め、干潟中学校のテニスコート、第三学校給食センターや旧干潟町農協倉庫が解体されており、その跡地が駐車場として使用できます。比較的駐車場はありますが、それでも混雑することも考えられます。

- ・隣接の幽学橋の道路工事につきましては、県の方で実施中で、実際のところ、年明けの3月でも終わらないと聞いています。

【教育長】

- ・次回の教育委員会定例会は、1月19日（金）午後2時から開会することに決定します。

10 教育長閉会宣言